日本における本格的な洋ラン栽培は 1890 年代にこの地に建てられた旧温室から始まりました。それ以来、皇室行事などに使用するための洋ラン栽培に力が入られ、外国から洋ランを輸入し新しい洋ランの品種が作り出されました。旧温室はまもなく洋ランの標本室となっただけでなく、デリケートな洋ランという植物の栽培方法を日本人園芸家に教えるための場にもなりました。新宿御苑は今も日本における洋ランの栽培および保存の中心地であり続けています。

この地では洋ランの交配種が数多く生み出されました。世界のランの交配種が登録されている、権威ある「サンダーズリスト」には、新宿御苑作出のランが 20 種以上登録されています。

第二次世界大戦末期、東京は幾度にもわたる空襲を受け、当施設（および新宿御苑の大半）にも大きな被害がありましたが、幸運なことに戦前から継承されてきた多様な洋ラン品種はなんとか守ることができたため、今日のコレクションには美しく希少な品種が数多く残されています。